

地域別集計報告 2024-11月

11月評価における経産牛の遺伝的能力評価値について、地域別の集計結果を掲載しています。

<比較対象>

改良の進み具合が分かるよう、現在と3年前の能力を比較したグラフを表示しています。

現在の値には2021年生まれの個体、3年前は2018年生まれの個体を対象に、SBV（標準化育種価）の平均を計算し、SBVの平均値と、（ ）内には3年間の増加量を表示しています。

<地域区分>

個体数ができるだけ均等に確保できるよう、北海道、東北地方、関東地方、北陸・中部地方、近畿・中国・四国地方、九州・沖縄地方の6つの地域に分けて集計しています。

<対象形質>

泌乳形質や体型形質などから、総合指数にも関係する、乳量、乳蛋白質量、肢蹄、乳器、体細胞スコア、泌乳持続性、在群能力の7形質の評価値を対象としています。

体細胞スコアは値が低くなるほど好ましい形質であるため、正負の符号を逆にした値を掲載しています。

地域の特徴

—北海道—

- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性、在群能力の評価値は地域の中で一番高い。
- ・肢蹄は増加量が一番大きい。

—北陸・中部—

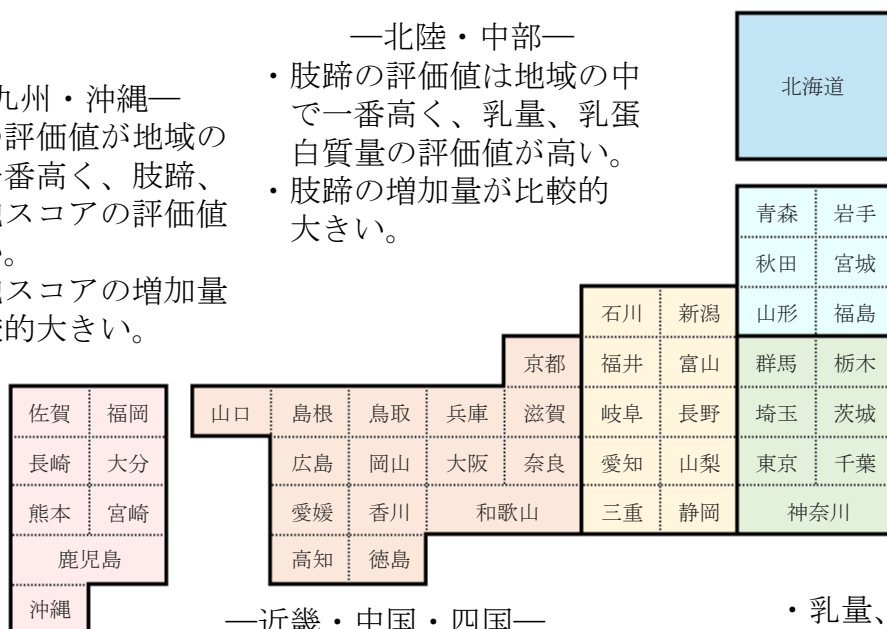
- ・肢蹄の評価値は地域の中で一番高く、乳量、乳蛋白質量の評価値が高い。
- ・肢蹄の増加量が比較的大きい。

—東北—

- ・体細胞スコアの評価値は地域の中で一番高く、在群能力、乳器の評価値も高い。
- ・体細胞スコア、在群能力は評価値の増加量が一番大きい。

—九州・沖縄—

- ・乳器の評価値が地域の中で一番高く、肢蹄、体細胞スコアの評価値も高い。
- ・体細胞スコアの増加量が比較的大きい。



- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性、在群能力の評価値が高い。

—関東—

- ・乳量、乳蛋白質量、泌乳持続性の評価値が高い。
- ・乳量、乳蛋白質量の増加量が比較的大きい。

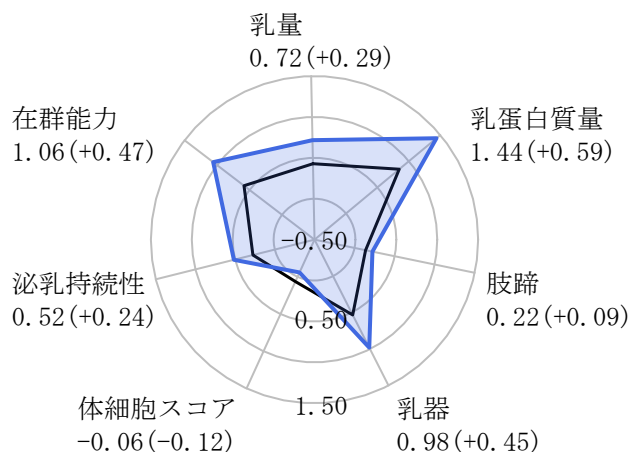
注) 増加量：各形質の「評価値」の増加量

— : 2021年 — : 3年前(2018年)

n = 乳量・乳蛋白質量/肢蹄・乳器/体細胞スコア/泌乳持続性/在群能力について、2021年の平均値を計算した個体数

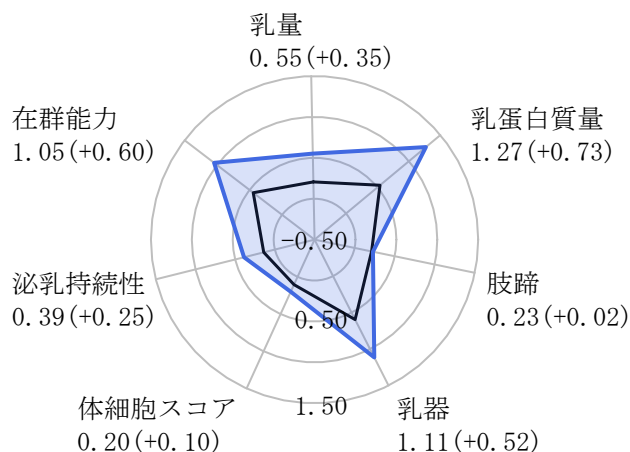
北海道

n = 105,185/ 23,342/ 97,995/ 105,185/ 12,280



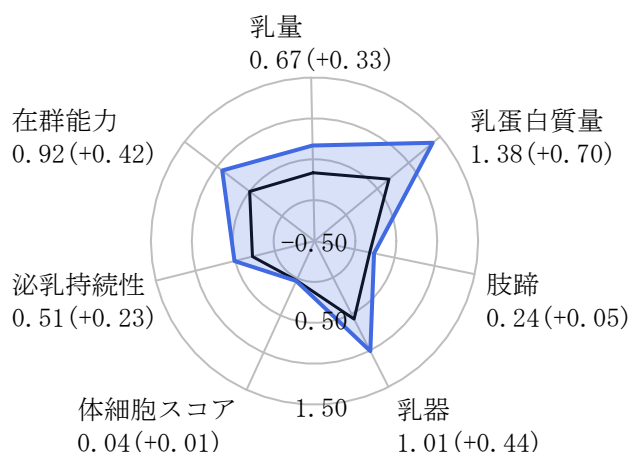
東北

n = 5,647/ 2,338/ 5,317/ 5,647/ 1,007



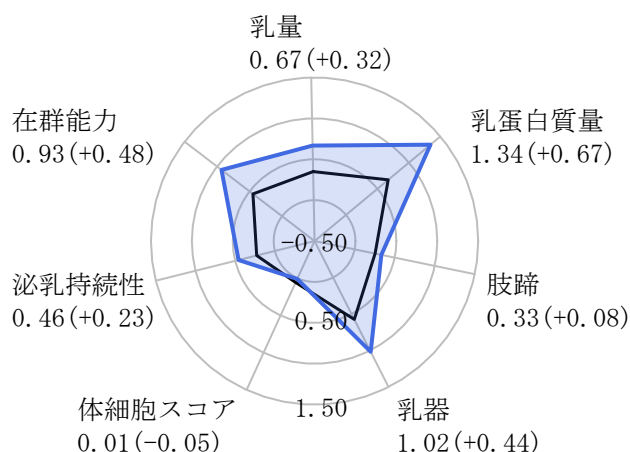
関東

n = 7,984/ 2,684/ 7,478/ 7,984/ 958



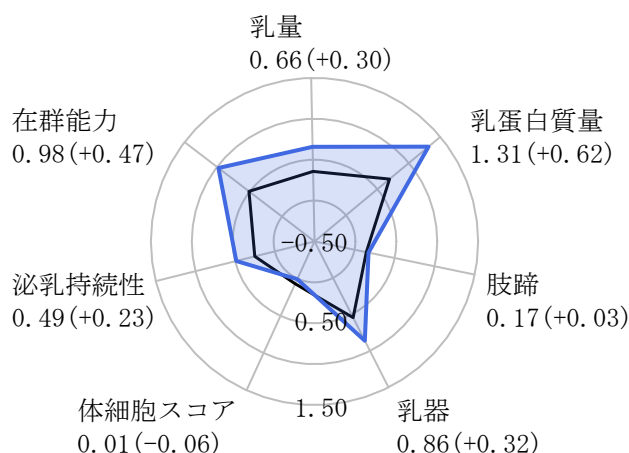
北陸・中部

n = 3,052/ 1,155/ 2,859/ 3,052/ 283



近畿・中国・四国

n = 5,718/ 1,910/ 5,334/ 5,718/ 478



九州・沖縄

n = 9,445/ 2,594/ 8,821/ 9,445/ 1,582

